持続可能な農業を目指す

集落営農グループ結成

8月、三角町の戸馳島では米の収穫が始まった。引き水が難しい環境で、梅雨時期にしっかり水をためられるようにと約40年間続く早期米生産。田植えをする4月から比較的温暖な気候を持つ、戸馳地区ならではの農業だ。

しかし、生産者13人のうち、8人が70歳以上。年々高齢化し、今後10年間でさらなる減少が見込まれる。さらに、作業にはトラクターやコンバインなど、1000万円以上する機械が何種類も必要。米の価格も下落する中、農家が単独で購入するには負担が大きい。

そんな危機的状況の中、7月、若手6人が集結して、「とばせアグリグループ」を結成。作業が難しい農家から受託して早期米の収穫を行う体制をつくった。

今は機械も各個人で充足しているが、不調時は皆で利用できるように機械の共有も進める予定だ。グループ代表の木村耕治さんは「グループがあれば、さまざまな意見が出るし、提案も生まれる。そして、何かあったときに頼ることもできる。」とメンバーの存在は心強いという。

「先祖から残してもらった土地を今後も絶対守っていきたいという思い。作業効率を考えると機械も大型化させたいし、そうするとお金がかかり過ぎます。コストを下げてこの先ずっと長く続けられるようにしたい。」と尾崎洋治さん。

希望ある農業に

吉田光一郎さんは「将来的には、自動運転などの新しい機械を取り入れて、誰でも米作りができるようにしたい。」と話す。今の子どもたちが戸馳で農業をしたくなるような魅力ある、そして、もうかる農業を目指したいと将来を見据える。

9月には、結成を記念して三角町の小・中学校の給食にと、精米した白米を90kg贈呈。グループの思いを込めた。

「戸馳印で安心して食べられる米作りをしたい。」その思いで持続可能な農業を目指す。

収穫後も、さまざまな機械での作業が必要

三角中に米を贈呈

(左上から)吉村 研一さん、木村 耕治さん、吉田 光一郎さん、(左下から)古石 博之さん、池田 和喜さん、尾崎 洋治さん

地域計画を策定し、集落営農を始めませんか

— 集落営農活性化プロジェクト促進事業 —

現在、市内全域で進めている地域計画。策定後、集落営農を始める団体には、継続的な発展を目指す次の❶～❸の進み具合に応じ、最長**4**年間、最大**1,000万**円を支援する制度があります。

❶ 集落ビジョンの策定　※必須
❷ 体制の確立
- 中核となる若者などの雇用　**上限100万円×最大3年間補助**
- 組織の法人化　**上限25万円補助**

❸ 収益性の改善
- 収益力の柱となる経営部門の確立
- 共同利用する農業用機械などの導入　**2分の1以内補助**

※ポイント制での採択

❶集落ビジョンのイメージ

1 現状・課題
2 ❷・❸を含めた方針
3 令和8年度の姿・成果目標
4 取り組み計画
5 関係機関のサポート

問　農政課　☎32-1641